

木曽川文庫

木曽川

INDEX.....

ふるさとの街・探訪記《各務原市》

歴史と緑がふれあうまち、各務原市

AREA REPORT

各務原市の治水事業と未来プロジェクト

気ままにJOURNEY

空へ。宇宙へ。各務原から飛び立つ夢

歴史ドキュメント

座談会～明治改修、地元の功労者たち～

民話の小箱

おがせ池の宝刀



木曽川文庫は治水の資料館。
水の大切さや恐ろしさを歴史から学び、
これからの治水を皆様とともに考えていきたいと思っています。
冬号は、航空宇宙文化都市、各務原市から、
各務原台地の開拓や治水の歴史を中心に、
歴史ドキュメントでは、
明治改修における地元の功労者の話を中心にした
座談会の内容をお届けします。



歴史と緑がふれあうまち、各務原市



市役所上空より北方を望む

中央部に各務原台地が広がる各務原市は、木曾川の流れとともに歴史を刻んだまち。承久の乱では、幕府軍と朝廷が、戦国時代には、織田信長や豊臣秀吉が、この地で合戦を繰り広げました。近世になると、各務原台地の開発が始まりますが、思つよつな成功にはならなかつた。明治二四年になつて、念願の各務用水が通水。大正時代に日本で二番目の飛行場が完成する。航空宇宙文化都市としての歩みを始め、現在では「元氣な各務原市」を合言葉に、活力ある都市づくりを推進しています。



中央の結びつきを示す銅鏡も出土しており、このことから中央の支配下に組み入れられたことを物語っています。

英雄、村国男依の活躍

六七年、天智天皇の子、大友皇子と天皇の実弟、大海人皇子が覇権をめぐって争つた壬申の乱では、大海人皇子の舎人であった村国男依が、大海人軍の中心として参加。將軍として指揮をとつた男依はもともと、美濃から徴収された農民たちも命がけの活躍をし、その功勞として男依は貴族の仲間入りを果たしました。また、男依の呼びかけに応じた各務勝氏も功績を挙げ、乱後、両氏は各務原を中心に美濃の豪族として、勢力を拡大しました。しかし、天平八年七六四に時の朝廷に謀反した恵美押勝の乱において、恵美押勝と強く結びついていた村国一族は、その勢いをなくしていききました。

広野河事件と各務勝氏

壬申の乱の功績によって、各務原第一級の地方豪族としての地位を固めた各務勝一族は、恵美押勝の乱によって失脚した村国氏に代わって力をたくわえていきました。九世紀後半には本拠地の各務原の他、西隣の厚見郡現岐阜

ルーツは先土器時代

各務原台地からは、旧石器時代の石器が豊富に出土しているほか、炉灶遺跡、防風林遺跡、六軒遺跡などの縄文時代の遺跡が多く点在しています。また後の古墳時代には、各務原台地上に数百に及ぶ古墳も造られました。市内鵜沼地区の一輪山古墳からは、中輪山古墳出土の銅鏡



坊の塚古墳

承久の乱の激戦地

源頼朝が武家政権を樹立した鎌倉時代、源氏に代わって美濃を掌握したのは、北条氏でした。後鳥羽上皇が北条氏追討を命じ、幕府軍と朝廷が戦つたのが承久の乱（一二二一）。他ならぬ木曾川も激戦地となりました。この各務原の合戦地は、摩免（現前渡）、板橋、現小伊木付近、池瀬、現大伊木付近。なかでも摩免戸は木曾川そのうちでも最大の激戦地で、朝廷側は一万余騎を配備したにも関わらず大敗。朝廷軍に加わつた美濃の武士は敗戦とともに大きな痛手を受け、これに代わつて土岐一族が各務原でも大きな力を持つことになりました。

鵜沼湊と東山道

木曾川の上流地域は、古くから木曾山材の生産地として知られ、伊勢神宮の内宮や外宮、鎌倉円覚寺の造営材も美濃から調達されています。文正元年（一四六六）、東山道（現岐阜）の造営を思い立ち、將軍足利義政は、用材を美濃から調達。木曾川上流域で伐りだした用材は、木曾川を利用して流送。美濃の錦織湊（現八百津町）で筏に組まれた後、鵜沼にいた中継ぎされました。

天下統一を影で支えた坪内一族

戦略的に重要な木曾川は、承久の乱など、幾度も歴史の舞台になっています。戦国時代も同様に、勢力を伸ばしつつあった織田信長にとって、要所となつたのが、木曾川河畔の鵜沼城と伊木山城でした。とびが鵜沼を守つて



夕暮れの伊木山

自給自足から商品経済へ

江戸時代の各務原は、幕府領、尾張藩領、旗本領の支配下に置かれました。五街道の一つとして整備された中山道は、各務原のほぼ中央を横断しており、鵜沼宿も整備されました。広大な各務原台地は主に稲作とされ、田畑の肥料にも利用されていたため、幕府がたびたび開発計画をたてたものの、そのたびに住民などから拒否されていました。特に台地の西側、更木八か村入会地は、天明五年（一七八五）になつて開発が始まりましたが、その工事は困難を極め、最終的には水不足と強酸性の土壌のために失敗に終わりました。開発にあつて貴重な労働力となつていったのが、つづれ百姓。重い年貢に耐えかねて田畑を捨てた百姓です。このように、江戸時代も中期になると米を中心とした自給自足の経済はくずれ、商品作物による流通経済へと変貌します。この各務原でも同様に、新田開発の人足や機械り仕事、石工、筏乗りなど、生活の糧を求めた農民は、さまざまに仕事を求めつつあります。しかしこれでも生活は困窮を極めており、こつとした状況下で明治維新を迎えることになりました。

念願の用水完成

殖産興業を奨励する新政府の政策を先取りする形で、明治初期、尾張藩による各務原台地の開発が試みられました。指揮官は尾張藩家老、田宮如雲。草雜隊を結成し、コンクリートの兵式訓練を行なつたこと、台地を水田にしようとして、明治二年、大安寺洞に貯水池を築かせました。さらに池水を利用して灌漑水路を開削。しかし、水路が素掘りだったため漏れが激しく、充分通水できませんでした。その後、事業は、如雲の死と重なり、明治四年の廃藩置県とともに頓挫。草雜隊も解散しました。その後、用水事業は横山忠三郎を中心とした農民によって進められ、明治三四年、ついに各務用水が完成しています。



田宮如雲の肖像



横山忠三郎 忠三郎を中心とした農民によって進められ、明治三四年、ついに各務用水が完成しています。

合言葉は「元氣な各務原市」

明治九年、各務原台地に設置された陸軍演習場が、航空宇宙文化都市、かかみがはらの幕開けでした。大正六年には飛行場が、第二次世界大戦時には、重要な航空機生産地の一つに。戦後は、航空自衛隊の岐阜基地になりました。昭和三八年には、各務原市が誕生。誘致工場も増加し、航空機、自動車、アパレル産業を中心に成長を遂げています。そして二世紀を迎え、次世代につながる、おしゃれで美しい田園都市をめざして、「元氣な各務原市」を合言葉に活力ある都市づくりを推進しています。

- 参考文献
- 『各務原市勢要覽』平成九年各務原市
 - 『各務原の歴史』平成二年各務原市
 - 『かかみがはら』平成二年各務原市教育委員会
 - 『かかみの一歩』平成五年各務原市
 - 『岐阜県地名大事典』角川書店

各務原市の治水事業と未来プロジェクト

地名が物語る、洪水の歴史

木曾川右岸の前渡の近くには、「下切」と「前渡切」という、ちまよと変わった通称の地名が残っています。「下切」はキリまたはキリと読み、堤防の切れることを意味しています。「地名のまわりの小字に注意してみると、木曾川とがびつ又川原・河原をはじめ、ナガト流などといった、洪水と関係のありそうな地名が多く見られます。これらの小字は川沿いだけではなく、奥まった各務原台地の近くにも見ることが出来ます。つまり、この小字は、堤防が切れたとき、流れ出した水の流路に沿ってつけられたものだと考えられることが出来ます。実際に国土地理院の土地条件図を見



新境川の百十郎桜

ると「下切や、前渡切」の辺りから、木曾川の古い流路をみる事ができます。

慶応元年（一八八五）には下切の堤防が決壊し、周辺の村々は大きな被害を受けています。

無数に走る河川、度重なる洪水

各務原市は雄大な木曾川をはじめ、天神川、大安寺川、境川及び、境川の支流の太田川、丁田川、正福寺川、後川、間無下川、轟川、岩地川、三井川とその支流になる濃川、中屋川など、多くの河川が走っています。これらの中で一番長い川は境川ですが、水源の各務原洞から羽島市子熊で長良川に合流するまで、約二八kmにすぎません。

境川をはじめとした河川は、川幅が狭くその上浅いという点もあって、大雨が降るとすぐ氾濫し人々を苦しめていました。



境川の堤防修築工事

明治時代に、元々は、年を以ては、多くの水害が、発生、中でも明治二年の大洪水はかつてない規模で

木曾川をはじめ無数の小川が流れる各務原市。これらの河川は川幅も狭く、浅いことから洪水のたびに被害をもたらしてきました。この水害を解決するために実施されたのが、境川放水路の整備です。完成後は、従来の排水不良も解決し、農業の発展に貢献しています。また、昨年から大規模な市政プロジェクトを開始。その一環である、水と緑の回廊計画は、環境保全をテーマとした大型プロジェクトです。

境川放水路の計画

各務原での被害は、堤防決壊一〇六か所、流れた橋七、浸水地域一三九万㎡余り、床上浸水戸数は一七〇戸にのぼりました。大正時代になつてからも、たびたび洪水は発生し、大正一四年の境川、荒田川の出水では、軍隊に水防応援を頼まなければならぬほど大きな被害を受けました。

こうした水害を解消するために、境川治水の実施をたびたび請願、陳情していましたが、なかなか実現されず、その努力がようやく実つて境川放水路の新設が決まりました。大正一四年のことでした。



完成した境川放水路

境川放水路は、蘇原村大島の山崎橋からまつすく南に向かい、那珂村、更木村を通つて羽島

境川放水路起点

放水路工事とその完成

昭和三年、待ちに待った工事が始まりました。

「境川排水改良第一期事業の工事内容の主なものは次の通りです。

- 一 放水路、延長五〇六〇・〇m。起点終点の落差四、八九m。
- 二 付帯工事
 - ア 橋梁、国道橋一、県道橋一、町村道橋一
 - イ 伏越樋及び樋管、蘇原村大島四か所、那珂村前洞三か所、更木村三井五か所、中屋村清水裏一か所、同大佐野二か所
- 三 その他
 - ア 三井池の埋立
 - イ 濃川付近の窪地の地上げ

工事中、四名が死亡する事故がありました。後は予定通りに進み、一年後の昭和五年三月に工事が完了しました。放水路ができた効果は大きく、境川の水が増えた時には大島にある樋門を開いて放水路に流し、水害を防ぐことができました。また、更木村や中屋村などの排水不良も解決し、農業の活性化にも貢献しています。

水と緑の回廊計画

各務原市新総合計画は、「元気な各務原市」を旗印にした野心的な市政プログラムです。四四三の政策・事業を実施し、従来のヘッドダウンから情報発信都市への飛躍を目標としています。

「水と緑の回廊計画」はこのプログラムの一環で、自然と都市との積極的な共生を図る地球環境共生都市」を目標に計画されました。

「三つの回廊」は、市民・企業・行政が共有する「まちの将来像」を掲げ、水と緑の回廊を育てていくための「三つの回廊計画と七つの拠点計画」を定めています。



3つの回廊と7つの拠点概念図

【三つの回廊計画】

まちの回廊 Inner Ring
まちの中に豊かな緑をつくりだしていきます。「まちの回廊」はその第一歩として、市民の憩いの場となる安全で美しいまちをつくりだします。羽島用水路の緑道化、市街地内の小公園のネットワーク化、公共施設の緑化、街路樹の整備、接道部緑化などにより、緑を生み出していきます。

川の回廊 Middle Ring
新境川や大安寺川などは、上流の水源地から、ため池、田園、市街地を経て、木曾川に合流。かつては氾濫を繰り返した無数の河川も、今ではすっかり穏やかな表情を見せています。

森の回廊 Outer Ring
各務原市の北側には、水源林としての里山が広がり、野生生物の宝庫であるとともに、数多くの遺跡と遊歩道が分布し、広域的なレクリエーションの場となっています。しかしながら、山裾では土地利用の混乱が見られ、アカマツの枯死が顕在化しています。「森の回廊」は、市民の参加により、里山の自然を保護し、大きなまとまりのある緑を財産として、保全・管理していきます。

【七つの拠点】

緑のシビックセンター

市民公園・岐阜大学跡地周辺、市民公園、岐阜大学跡地、市民公園、土地区画整理事業によりつくりだされた多くの小公園の活用を図ることにも、斜面林の保全や個々の家・企業などの協力による地域



全体の緑化を進め、新しい都市基盤と運動した緑のシビックセンターをつくります。この拠点で早くから整備された新境川堤は、桜の名所として知られています。

田園のランドスケープ

加佐美神社周辺、里山、農地、ため池、河川、農業用水路など、さまざまな自然的、農業的環境をネットワークさせることにより、地域の自然環境、田園環境の質を高めていきます。特に、公共施設の整備、河川や農業用水路の整備などにおいては、自然や景観に調和する整備を図ります。

木曾三川公園

国営木曾三川公園計画地、北派川一帯を中心とする木曾川周辺の優れた自然環境の保全と活用を図り、自然とふれあい空間となる公園の実現をめざします。

空の森

航空自衛隊岐阜基地周辺、航空自衛隊岐阜基地周辺は、広大なオープンスペースと崖線などが特徴の各務原台地です。かつては不毛の台地も飛行場の建設などにより活性化、多くの社寺も分布しており、地域のランドマークにもなっています。この台地を長い歴史に育まれた郷土の森として、分断されている緑地となげ、市街地の良好な都市林を育成す



るとともに、羽島用水路の緑道化などによる水と緑のネットワーク化を推進します。

各務の森

土砂採集により山容を変えた各務山は、市内の各地より目にする事ができ、景観的にも精神的にも良好といえます。そこで緑の山として再生する計画をつくり、前山開発計画と連動させて、二世紀の各務の森をつくります。

大安寺川上流部

大安寺川上流部・新境川上流部周辺、暮らしを支える水源の地やため池、ホタルの生息地など、良好な自然環境の保全を図るとともに、自然改変地などでは自然環境の回復に努めます。

伊木山・犬山城

伊木山・犬山城周辺、木曾川を隔てて対峙する伊木山と犬山城。この文化遺産を守るためには、連携したまちづくりが必要です。伊木山をはじめとする斜面林の保全、鶴沼宿の歴史的な町並みの保全・整備、大安寺川下流部における自然と調和した川づくりなどを行ないながら、緑豊かで格調高い環境をつくりだしていきます。

参考文献

- 『水と緑の回廊計画』平成一二年各務原市『各務原市新総合計画』平成一二年各務原市『各務原の歴史』平成二年各務原市教育委員会『かかみがはら』平成一二年各務原市教育委員会

空へ。宇宙へ。各務原から飛び立つ夢

雄大に流れる木曾川上空に、弧を描くように舞う、飛行機が一枚。
 「あれは何だ」「鳥だ」「カラスだ」「いや、ヒトキだー！」まだ鉄道も整備されていない大正時代、空を見上げた人々は、あぐり口を開け、それも忘れてしまつほど、度胆を抜かれたにちがいない。各務原の空で初飛行されてから一世紀、翼をつけたイカロスたちの見果てぬ夢。未来への旅は、ますます大きく羽ばたいている。

夢は果てしなく空へ

一九〇三年、人類の夢を乗せて空へ飛び立つライト兄弟。あれからわずか百年の間に、電話・テレビ、自動車、インターネットなど、人間の英知はさまざまに豊かさを生み出してきまし。日本人宇宙飛行士、若田光一さんが、宇宙ステーション建設に大きな役割を果たし、日本中の喝采を浴びたのはミレニアム世紀末と騒がれた昨年のことでした。

まさしく二〇世紀は激変の時代。四六億年ともいわれる地球の歴史のなかで、アリのあくびにも満たない百年間は、人々の暮らしに快適さをもたらしく、平均寿命を飛躍的に伸ばす一方、かけがえのない自然は荒廃し、リストラ、倒産、経済的にもかつてないような大きな課題を残しました。

翼をつけたイカロスたち

大正六年。所沢飛行場を飛び立つた、モ式四型複葉機は、無着陸で木曾川上空へ到達。甘諸畑の広がる台地の上を、ゆくり旋回し、雲がたちこめる空に、大きく光る物体「あれは何だ」「カラスだ」「ヒトキだ」「いや、ヒトキだー」操縦桿を握るのは、日本で初めて飛行機を操縦した徳川好敬大尉です。開設したばかりの各務原飛行場へ、一番乗りしたのでした。華麗なるイカロスたちの、見果てぬ夢を受け入れた町。しかし、その輝かしさは裏腹に、暗い影を落としていた時代もありました。市の中央にでんと広がる各務原台地は、当時



徳川大尉による初飛行

岐阜県でトランプの生産高を誇る甘諸畑でした。甘諸といえは鹿兒島特産。火山灰が堆積した不毛の土地でも耐え得る、強い穀物です。その鹿兒島同様、ここ各務原も御岳山の火山灰が降り積もってきた台地です。過去に何度も開発の計画が持ち上がり、実行されながらも、そのどこかが失敗。水もちが悪い土壌が最大の原因でした。この広大な台地は、結局肥料用の秣場が甘諸畑にしか利用できず、長く不毛の地となっていたのです。

そんな様子が変わったのは、幕末から、幕末には大砲演習場、明治初期には陸軍の砲兵演習場となり、そして大正六年には、日本で一番目の飛行場が開設されました。水もちが悪いという致命傷は、飛行場にとっては不可欠な「排水が良い」という好条件に変わったのです。飛行場開設から三年後、中山道には、ラムールレイユが鳴り響き、その歌声に送られてフランスの誇る航空隊の隊員二名を乗せたオプンカーが、甘諸畑の広がる街道を、土煙を上げながらやってきました。また、高山線も開通してないというので、沿道にゆめかいた人々はききこめず、刺したにちがいません。

三下ト少尉たちフランス兵の任務は、各務原に設置されて間もない六軍航空隊隊員の技術指導でした。一般公開された飛行訓練



乙式一型偵察機 サルムン2A-2型機

丈夫で硬質なクルミを、骨組にはやはり丈夫で軽いノキをとり、機体のほとんどに木材が使われているとは、驚きです。そのフォルムは、まさに大正時代に生まれた大正ロマン。当時としてはトップレベルであったという航続時間、三時間二〇分も、その後ほとんど延長していきま



当時のサルムン機

中でも、土井武夫さんは、今までに二〇種以上もの飛行機を設計したというパイオニア。昭和五年には、ドイツ人オクト博士の指導のもとに製作した、九二式戦闘機、昭和一〇年には、だれの指導も仰がず、土井さん自身で製作した「九五式戦闘機」、そして昭和一六年には世界的にも有名な戦闘機「飛燕」を完成させました。「飛燕」は月産に二百機で、あ「サルムン」の全生産数



飛燕

が三百機と、二つことから考えても、航空技術の飛躍的な進歩がうかがわれます。各務原初の、サルムンからわずか二〇年、昭和一二年に当地でテストした「神風」が都市連絡国際記録をくり、日本の航空技術の高さは世界から認められました。

しかし、第二次大戦後しばらくは、飛行機の生産が禁止されていた時代がありました。その辛い時期も土井さんは、飛行機「再び」の夢を捨てておらず、昭和三七年生産されたのが、初の国産旅客機、YS-11旅客機です。土井さんは、この輝かしいロケットに参加し、パイオニアとしての役割を思う存分果たしたにちがありません。徳川大尉が初飛行してから、半世紀を経て再びイカロスの夢が実現されたのです。昭和六〇年には、低騒音STOL実験機、飛

鳥」が初飛行に成功。平成六年には、「H2ロケット」の打ち上げに成功するまで、夢は空から宇宙へ、無限大の広がりを見せています。明治三十七年生まれ、土井さんも、川崎重工の顧問として活躍されましたが、平成八年に逝去。宇宙へ、この果てしない夢をテーマに多くのファンを魅了しているのが、松本零士さん。「宇宙戦艦ヤマト」「銀河鉄道999」などの空や宇宙が舞台の幻想的な漫画で人気を集め、航空ファンとしても有名な漫画家です。彼はかみかみは、航空宇宙博物館の名譽館長。体験飛行館の「宇宙飛行シミュレーター」には、「大航海！星の海！」という松本さんのイラストが描かれています。大昔、地球の生命は海で生まれた。人はその進化した子ども、宇宙

は第二の海での新しい生命の源。それは、未来の限りない進化の証し、新しい生命体への輝かしい始まりを「イラストに込めた松本零士さんのメッセージです。そのメッセージを胸に、宇宙シミュレーターで火星への冒険を体験すれば、つきよ上げてくるような感動が体全体を満たしてくれます。

いよいよ始まった二世紀。この時代を輝かすものにするためにも、徳川大尉のように、土井さんのように、夢をあきらめることなく追いつめて行きたいものです。かみかみは、航空宇宙博物館は、そんな元気に出会う場所。名古屋からわずか一時間、迫力満点の夢と宇宙に出会うことができます。



各務原で実験中の飛鳥



YS-11旅客機

各・務・原・市・の・歳・時・記

村国神社例祭

10月15日直前の土・日曜日



勇壮な太鼓の音色、繊細な笛の調べ、村内各地に伝えられる鎌倉踊りは、その名の通り、平家を滅ぼした源氏が戦勝を祝って踊ったのが始まりとされています。後年、雨ごい踊り、豊年踊りとして一般に踊られるようになりました。踊りの内容は集落ごとに少しずつ異なっています。

各務原市 EVENT INFORMATION

| | |
|-----------|----------------|
| 日吉神社例祭 | 4月第1日曜日 |
| 手力雄神社例祭 | 4月28日・29日 |
| 蓮如祭り | 4月第4・金・土・日曜日 |
| 前渡不動例祭 | 4月第4日曜日 |
| 大安寺川はたる祭り | 6月上旬・30日 |
| 山中不動尊例祭 | 7月28日 |
| 日の出不動尊例祭 | 7月28日 |
| 加佐美神社例祭 | 10月15日直前の土・日曜日 |
| 村国真墨田神社例祭 | 10月第2日曜日 |
| 御井神社例祭 | 10月第3土・日曜日 |
| 伊吹山不動尊例祭 | 11月28日 |
| 航空祭 | |



交通のご案内

名古屋方面からお車をご利用の方
 名古屋 R22 岐阜 R21

名古屋方面から公共交通機関をご利用の方
 名古屋 JR東海道本線(約20分) 岐阜 JR高山本線(約10分) 那加 JR東海道本線(約20分) 新岐阜 JR東海道本線(約25分) 各務原飛行場 名鉄各務原線(約10分) 名鉄名古屋本線(約25分)

お問い合わせ
 各務原市役所 〒504-8555 岐阜県各務原市那加桜町1丁目69 TEL0583-83-1111

座談会、明治改修、地元の功労者たち

木曾三川分流は、下流域の住民にとって長年の悲願。殖産興業を奨励する明治時代になって、ようやく実施されました。

この近代史上最大級の明治改修を実現するために、地元の篤志家も奔走。

用地収用にあたっては、政府と住民間の調停役を務めるなど、大きな役割を果たしています。

明治改修から一世紀を越えた今、彼らの功績を顕彰するために、治水功労者の「子孫や郷土史研究家の方々にお集まりいただき、座談会を開催、その内容を」紹介します。

熱心な治水活動で道を開く

司会：岐阜県輪之内町では、片野萬右衛門が私財を投げつけて治水事業に奔走します。片野知二さんは、その子孫にあたられるわけですね。

片野：萬右衛門は、私の曾祖父です。明治改修が実施される直前の明治一八年に亡くなっていますので、工事の成り行きが見られず残念だったと思います。父親も私どもには多くを語りませんでしたから、聞いておけば良かったなく、今にして悔やまれます。田鶴浦・三重県長島町で、野亨寺の住職をしています。寺の創設は文政七年（一八一五）で、私は六代目にあたります。住職を拜命した時に、家の整理をしていたら、明治前の資料も随分出てまいりました。ただし、半分以上はネズミにかじられて虫食いの状態。主に野村忠左衛門（旧地主）の資料で、いろいろ改修について調べていくうちに萬右衛門についても知ることになりました。歴史は面白いですね。素人ですが、時間を見つけて資料を読んでいます。

野呂：愛知県立田村の安泉寺の元住職です。生まれは大正八年。父の勧めで愛知第一師範、今の愛知教育大学を卒業後、教職につきまして、四一歳から校長を一七年間、務めました。歴史は私の専門であり、現在は、立田村の村史の編集を担当しています。

片野：私自身は小さい時、岐阜へ出ておりまして、学校を出て二〇歳になってから「こちらへ帰ってきまして、当時の大樽川は本当に清流で、まさに聖域でした。治水功労者の金森吉次郎は、「この堤君が肉にして、この川、血なり」とよんだ。

司会：金森吉次郎、山田省三郎、高橋示証



片野萬右衛門(片野記念館蔵)



金森吉次郎

男」とか、「治水で狂った男」とかいわれた山田省三郎は四五歳です。省三郎とともに西濃治水派を形成した脇坂文助は、岐阜県の三代目の県会議長です。その後、大阪の日本銀行へ勤め、最期は岐阜に戻りますが、長良川の川北の木賃宿で、五一歳で寂しくこの世を去っています。

民間の活動には明治の官僚も協力的でし

などの熱心な治水活動が、明治改修の実現につながっていったのです。

片野：明治一〇年、長島町の横溝蔵から明治改修は始まります。その時、金原明善が家財を全部売ってしまっていて、それを資金にして天竜川の改修事業に体を張ったという新聞を見て目を覚ました金森吉次郎は三歳です。最初に治水建白書を政府に提出した高橋示証は四五歳。泣き



高橋示証(浄雲寺所蔵)



治水願日記

片野：そうです。治水共同社とも一つは高橋示証の運動です。明治八年に「木曾川筋治水之儀」として、左院に建白書を提出しています。示証は仏門にあつて仏の教えを説き、私財を投じて治水に尽くした。岐阜県だけにとどまらず、三重県にも足を伸ばした。隠居し「子息にお寺を譲って、この道にずっと。左院が元老院に変わって、矢継ぎ早に建白書を出しています。治水碑には彼の業績を称えて、「その立派な行いは新田を築いた行基、四五〇町歩の水田を開いた空海の、二人のご上人のごとく」であるという書き方をしています。この示証の他にも、寄付という形で多くの人々が協力しています。特に平田町には資産家があり、早川という地主は治水共同社を設立する時に千六百円出している。

苦難をきわめた土地収用

司会：官民双方の協力で明治改修はようやく着工されますが、その一方、土地収用という難題も抱え込むことになりましたね。

片野：ここに「出席されているお二人はお寺さんですが、私は縁あって神道の方のお宮さんを預かっています。以前、氏がこ

んなの出できたって、神社の棟札をみせてくれました。揖斐川左岸の白鬚神社がご遷宮された時のものです。この神社は明治改修の用地買収で現在の場所に遷宮されたのですが棟札には遷宮式当日の参詣者は二八〇〇〇人、余興には散餅用の餅二五俵、祝酒四樽をふるまい盛大に花火をあげたと書いてありました。

こつして犠牲を払った先祖のおかげで今がある訳ですから、輪之内町の地元区民は明治改修百年を記念する碑を建てました。遷宮の棟札を見た人々が有志になってね。先祖に感謝する気持ちが町を動かし記念誌を編集中です。

司会：用地買収は下流の長島から始まり、上流へと向かいますが、輪之内町は比較的後期に実施されたんですね。

片野：ここに「土地収用事務書類」という明治二九年の資料があります。当時は、地主と小作という構造がありましたから、小作の人は本当に行き場に困って苦労しています。現在だったら、基本的人権とか生活権が保障されていますが、昔はそうじゃなかったと思うと気の毒です。

野呂：大きな難儀を抱えて、みんな苦労したと思います。片野：輪之内町の用地買収は明治一九年から始まり、大体三〇年頃に終わっています。ところが、なかなか買収に応じない人がいる。そんな時、明治二四年の濃尾震災と明治一九年の二度の大水害が発生した。この天災のおかげで、話し合いがしやすくなりました。家は崩れて更地になってしまったわけですから、話し合うしかなかったと聞いています。

司会：土地や家屋の評価基準はどんな状態だったんですか。片野：移転料の補償ということの一つの基準を示す時、建物の補償は「等から一〇等まであったという。」等をつけられる人と一〇等をつけられる人では、ものすごい格差があると思いますね。ムシロの家と豪奢

な邸宅とでは、それは誰がみてもわかるんですけれども。特に目を見張ったのは、玉垣、石垣、石灯笼などの石造物。石灯笼は最高四円から、安いので五〇銭、それから驚いたのはお墓移転です。この村を去らねばならない。墓地から、白骨が出たときには、三〇銭。棺が出てくれば一円と決めています。また新しいところへ埋葬しなければならぬから。そうして骨壺に納めて、移転していったんでしょうね。実のなる樹木栗とか柿などに対しては、何年間の補償額を上乗せして値段を決めています。これは情があります。

土地に対しても同様に階級があって、随分値段が違う。いわゆる、上田、中田、下田という名寄せ帳に出ている評価と同じように、土地買収についても値段を決められておられたのだらうと思います。

司会：当時は小作と地主という構造でしたが、その点で問題は起きませんでしたか。田鶴浦：長島町でも北部の船頭平間門近辺の伊藤さんという先生をやっていた方が、補償はあったといってみえますな、ある程度の補償はあったようですよ。

片野：涙金だわね。今の建設省のような補償は全くなかった。野呂：ひどいもんです。田鶴浦：小作争議なども起きています。

二度の天災で生活はさらに困窮

田鶴浦：私どもが住む長島町には、老松輪中というのがあります。ここは、わりと田面や畑などの標高が高かったものですが、藍とか綿の木とか、そういう産業もあって、比較的裕福な輪中だったと聞いています。しかし、河川改修によって土地が減少してしまつたので、そういう収入も減つてしまつた。それに追い討ちをかけるように、明治二四年の地震や二九年の水害が発生した。そんな状況の中で、壊れてしまつた家屋は復旧せねばならなかつたらうし、

た。内務省の石井土木局長は視察の帰り、桑名から、五〇円を送るから治水共同社の雑費の中に繰り込んでいかうようにでも使ってください」と送ってくれる。岐阜県の土木官僚も二〇円、給仕という身分の人まで、みんな金を出しています。これは明治二三年の出来事。

司会：治水共同社は山田省三郎や片野萬右衛門らが結成した有志団体です。



山田省三郎

座談会出席者(敬称略)



田鶴浦務
大正一三年生まれ、
三重県長島町在住
野亨寺住職



野呂界雄
大正八年生まれ、
愛知県立田村在住
元安泉寺住職



片野知二
昭和二年生まれ、
岐阜県輪之内町在住
片野記念館館長

堤防も補強しなければならぬ。地主さんもういろいろ金がいりますので、結構取り立てが厳しかったらしいです。土地がないと作物は出来ない。以前より生活は苦しくなっている。小作料の支払い延滞など、小作人と地主の対立が起きるようになったみたいです。そういうことから、北海道移住など、いくらか考え方を覚えておられる方もあったかと思えます。

盛大に開催された 木曾三川分流完成百年記念行事

平成二二年一〇月二四日(火)、愛知県立田村の船頭平河川公園特設会場で、木曾三川分流完成百年記念行事実行委員会による記念行事が開催されました。

式典のプログラムは、百年記念クイズ表彰式と記念講演会、重要文化財船頭平間門の見学です。

三三一名の応募をいただいた百年記念クイズは、上位者多数のため、抽選の上、上位者一〇名に表彰状と賞品を、その他、百名の方々に記念品が贈呈されました。

寺社が調整の役割を果たす

野呂：人徳が豊かな人が話し合いの真ん中へ入って問題解決した例が多くあります。お役所が設定した話し合いだけでは無理なんですよね。人間の欲は切りがないもんでしょとくれもつとくれ、ということになる。それで、こういう徳のある人が、まあ、そんなこと言うとなと説得したんでしょ。うな。一番苦労したのは、やはり、土地収用でしょう。そのいい例が木曾川左岸の葛木には渡辺治郎という方がいて、対岸の岐阜県も日原などでは大分話し合いが難航したが、愛知県側ではスムーズに事が運んだ。買収価格は低かったが、双方の間に立つて問題を処理していく。それで余り騒動が起ころなかつた。

司会：立田村史の「寺院の移転」という項目には、木曾川改修移転につき再嘆願という次のような文章があります。明治二一年をもつて、移転事業を実施するにはいろいろ困難な問題があるので、至急、御移転費をお下げになるよう嘆願して、一日千秋の思いで御指令を待望しています。

野呂：私のところの名前もあはすだ。司会：安泉寺住職 野呂東演の名前も載っています。

野呂：私のおじいさんだわ。羽島から養子にいらした。司会：当時の寺社は、用地移転とか用地買収とか、そういう問題を全部まとめていたわけですか。

野呂：そういうわけではないが、協力的だったから、割合スムーズにいった。立田輪中では渡辺治郎、輪之内町では、片野萬右衛門がリーダーとなって輪中をまとめていった。先程の嘆願書は、立田村の引接寺の丹羽さんが発起人になって、移転のお寺さんがみんな連名して、陳情したわけだ。司会：お寺を移転せざるを得なかつたわけ

です。野呂：その陳情が認められたから、割合スムーズにいったわけ。おかげで、お寺は川の土砂をとることを認められていた。改修によって、美田は新しい川の底に沈んでしま、家の移転先は、ガマやヨシの生えている低い所。だから埋立の土砂がほしい。しかし、土砂の採取はお役所の管理下にある。民間の人たちが土砂をとることは禁止されていた。当時、大船一杯の土砂が、二銭五厘、伝馬船一杯が一銭五厘くらいな着帳というのがあって書きつけてある。そんな土砂をみんなが買い求めた。土地を改良するためにね。ところが、寺だけは公式に土砂をとることが認められていたから、民間の人たちに委託して土砂をとらせた。それで得たお金を、労賃として差し上げていたのですね。河川改修で土地を失って、悲惨のどん底、米や麦を作る田畑もない。そういう時のつなぎ資金になったというわけ。

新天地に活路を求めて

司会：土地収用が完了すると、移転が始まりますが、主にどちらへ移転されたのでしょうか。野呂：福東輪中の福東地区では、一九〇軒中、五〇余軒が移転しています。一番多いのは名古屋の一九戸で愛知県全体は三戸。立田輪中や祖父江などで移転しています。北海道へ入植した人はわずかに三名、行き先はわかっています。

田鶴浦：長島町には、三重団体とか長島団体とか、いろんな団体があり、長島町史によると北海道へは二四八戸、入植しています。この入植には先達と言われる方がありまして、北海道は新開地で作物もよくできるとか、いろいろな宣伝があったらしい。この宣伝が功を奏したのでしょう。多くの人間が北海道へ行っているわけですから、しかし、行き先はばらばらです。

野呂：立田村からは、美唄へも行っている。田鶴浦：美唄には炭鉱がありまして、長島からも相当行っています。しかし、ほとんどの人たちは農業に従事しています。

司会：明治時代の北海道は、遥か彼方の異国、みなさん苦勞されたんでしょうね。田鶴浦：三重団体の主力が、苦前に入植してますが、そこでは、村人がクマに食べられたという事件がありました。

野呂：入植とはちがって、縁故を求めて移転したケースも多いですね。司会：豊川の近くにある神野新田は八開村の神野金之助重幸が開拓した新田ですが、ここにも多くの人々が移住しています。

野呂：豊川の河口はノリの養殖、種つけに最適の場所、弥富や長島の方からも行っている。交流があったんだね。そういう関係で、神野新田の方へ行った。田鶴浦：当時は、お寺にお参りするための賽銭さえ困るような貧困の時代でした。しかし、神野新田の地主さんは、そんな賽銭もみんなに分け与えた。そんな話が先に行



骨髄だわ。今日になって偉い人だったということが分かったが、大体、先駆者は恨まれたもんだ。こう考えると、デ・レーケも外国人だったからこれだけの大事業がやれたと思っっています。

片野：それに、学者ではなく技術屋だった。現場監督で鍛え上げられていたから、あれだけのことがやれたと思う。司会：そうですね。江戸時代には猿尾という小さな堤防を一本出すのも利害関係があつて難しかった。堤防を修復するのも、昔はなかなか出来なかつた。それをアツと云う間に、川や畑にしたわけですから。

田鶴浦：荒療治ですね。野呂：デ・レーケは木曾川流域を視察してあるが、笠松では、泥砂が多く流れるのを見た。木曾山では、薪を軒先まで積み上げた民家を見た。それを見て、これは何だと怒ったそうです。そういうふうな木を切つてくるから山がはげしてしま、洪水の原因になるのだと、そんなこと、日本人は昔からやっているので気がつかない。外国人だから、これはいかんとはつと気がつくわけから、木曾川や長良川・揖斐川がいつしよに

はデ・レーケの生家に近い港です。二 海津町が寄贈したプレートは、像の台座の後側にはめこまれました。三 デ・レーケの自費出版本、東南アジアからオランダへの夏の旅、シベリア鉄道を經由して、明治二七年が復刻され、除幕式の参加者に贈呈されました。関係者がその本に寄せた一文にKAIZUが出てきますが、地理関係については不正確で、海津州になっていたり、その州の中に「名古屋」がある

デ・レーケの故郷で開催された除幕式に出席

名古屋大学教授 博士(教育心理学) 伊藤 義美

二〇〇〇年一月三〇日～二月七日 岐阜県海津町から研修視察団(十七名)の一員としてオランダヘルキーンに行ってきました。その大きな目的の一つは、ヨハネス・デ・レーケ氏の墓参りと銅像の除幕式(二月五日)に出席することでした。海津町は銅版のプレートを寄贈、銅像は船頭平河川公園にある銅像とほぼ同じものでした。そこで明らかにした点は次の通りです。一 オランダのコンスメンタートにおいて、デ・レーケの銅像の除幕式が、関係者百名を集めて行なわれました。銅像が建立されたの



このことになっています。また、別のパンフレットでは、船頭平にある銅像が名古屋にあることになっていました。

かれた方から伝わったんでしょう。先程ノリの話がありましたけど、あそこだったとこちらにいるよりはそちらでもう一度やり直した方がいい。そう思ったんでしょ。野呂：神野さんという人は非常に仏法心が深い人で、堤防沿いにいくつも木の観音様を置いて拜ませた。それで毎朝お参りにいって、堤防がえくておるとか崩れているとかを報告させた。なかなかよく考えているな。司会：住職が土地収用の調整の役割を果たしたように、当時は仏教の果たす役割が大きかつたんですね。集団移転に際しては、寺もいっしょに移転しています。

野呂：神野新田の円籠寺がそうです。昔の人は何か信じておらぬといかぬから、そういう心のよりどころとして行くわけなんだ。円籠寺の場合は、移転後割合上手くいった。

明治改修の地元の評価

司会：話題は変わりますが、当時の人々は明治改修をどう評価していたのでしょうか。野呂：最近になってデ・レーケ、デ・レーケと言つけれども、デ・レーケを恨んでおる人も随分あつたと思う。今でこそ、先を見通した大事業をやつたんだなと思つているけど、当時の人はそんな風には考えていなかった節がある。いろんな難儀をかかえ恨んでいる人も多かつたと思う。そのところを暖い人がうまく治めた。

司会：暖い人とは、どんな役割をもつた人だったのですか。野呂：暖い人はあまり文書には出てこないけれども、民間の人望の厚い人を仕立てて、上手におさめて改修事業をやらせてみる。その後、これならいいということでも基本原則を変えていく。大工事にはこうした陰に隠れた民間人の協力があったと思われ。

宝暦治水の時も、油島千本松原堤の締切が出来ず、二百間も開けてあつた。締切ることにより、上流の村も下流の村も水の影

流れていることが水害の原因になることも最初木曾三川の分流を提言した井沢弥惣兵衛と云う人もいたが、これが水害の原因になることがわかつた。しかし気がついていてもやれなかつた。デ・レーケは外国人だからやれた。

片野：輪之内の塩嶮というところは、四分の三の土地が目減りしました。しかし後の四分の一で前よりも多い収穫が得られるようになったよ。その一方で、ふるさとを捨てなければならぬ人たちがいた。昔の人たちはふるさとに非常に執着していましたが、身を切られるような思いをしました。そのあらわれとして、堤防沿いの改修にかかつたところのお寺やお宮さんでは、大垣市の誰々、名古屋市の誰々と移転した人が提灯を寄付しています。神仏に対する感謝の念が強かつたんでしょうね。

野呂：水を治めるといふ事は、中国でも禹の時代から苦勞しています。治水文化という特殊なものがあるんだね。片野：昔の文書には、治水、利水、用水といういろでできますが、「ようすい」を「養

水」と使い分けをしております。水に対する脅威の念もありますし、水からいたたく恵み。他ならぬ人体も約七割の水を蓄えて生きていく母体なのです。そういう点で養水という、先人たちの思いを今一度見直さなければいかぬと実感しています。水の功徳に改めて感謝しています。

野呂：先祖を崇拝して、先祖の足跡を丁寧に取りがとつと思つて見ていく。そういう中から、これからどういう風に開拓していく、見通していくということが大切なんだと思つたわけ。

田鶴浦：私の住んでいる松陰では、昭和一九年の東南海地震からの地盤沈下で海水の遡上が始まり、川の水の取入れが出来なくなり。そこで地下水に頼り過ぎ、地盤沈下を助長してしまつたことになりました。長良川河口堰が出来て本当に助かります。いろいろ問題もあります。今日、明治改修は荒療治という言葉を使いましたが、あれは良かったと思つております。そして、今後はどんな荒療治をしていたただけるのかなと、それを望んでいます。

司会：長い時間、ありがとうございました。

訂正のお願い

- 前回発行のKISSO VOL.36「TALK&TALK」に文字の誤りがありました。
10ページ2段目19行目 (誤) 三川合流を
(正) 三川分流を
10ページ2段目39行目 (誤) 日本人牧師に命ずる。
(正) 日本人技師に命ずる。
10ページ2段目42行目 (誤) デ・レーケ
(正) デ・レーケ
執筆者に慎んでお詫い申し上げます。
もし、読者の皆様様に訂正をお願いします。

民話の小箱

おがせ池の宝刀

各務原市

むかし、おがせ池に、大蛇がいてな。みんなこわがっていた。ある年の夏、たいへんな日照りがつづいてな。

おがせ池の水も枯れてしまい、百姓しゅうはこたを困り果て、毎日、毎日、みんなを雨乞いをした。

けれど、ちつとも雨は降らな。とうとう惣八郎といふ百姓頭が、大事な馬一〇頭と、牛一〇頭を大蛇に食わせまい、池の真ん中に連れ出した。

「蛇神様、これを受け取ってください。そのかわり、雨をください。一心に祈りました。」

するく、とうじよ。大粒の雨がふちやけるように降り始めた。池の水はみるみる内に増えて渦を巻き、

惣八郎は馬もとも、あといつ間に洗んでしまった。

三年の歳月が過ぎた。

百姓しゅうが惣八郎の法要を言むたため、お経をあげてもらっている時だった。池のなかから、誰やら顔をだし、「ちつと泳いでくるとはいないか。」

「惣八郎だ、ありがたや、惣八郎が生きておった。」

ほかんとしている百姓しゅうの前で、惣八郎はこんな話を始めた。

「ああ、あの日、池に引きずり込まれ、気を失っていたんや。」

「いた、いた、とつめく声になつて気がつくと、

のたうち回っている大蛇が、「こをさすってくれ」と

ふくれ上がった腹を見せたんや。こわこわさすしてやると、

大蛇は、大きな口をあけて、苦しげに太刀を吐き出した。

そして静かになり、

『わしは、この池に千年も住んでるまじよ。』

むかしは、すいらた村で悪事を働かしてきたの、なかなか往生できな

お前が村へ帰ると、坊さんになつた。

わしが大往生できるまじよ、祈ってくれないか。

この太刀は、わしのただ一つの宝じよが、もつていけ。

もし、大往生できたなら、「この太刀は、まじよ村を守りてくれ、だつたまじよ、

とついで、受け取る、もう身体が浮きあがり、

この通り、無事に帰つてくれたの、まじよ。」

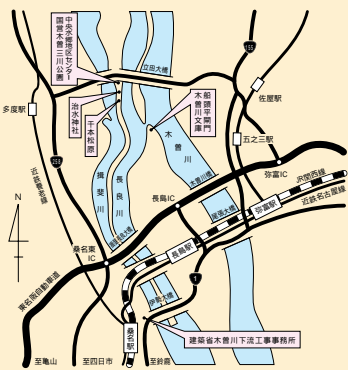
そういながら、立派な太刀をみせたそうな

今も、この宝刀は、池の近くの祠に祭られ、

村の守り神として、お祈りがたえなまじよ、まじよ。



木曾川文庫利用案内



《開館時間》午前9時～午後4時30分
 《休館日》毎週月曜日・祝祭日・年末年始
 《入館料》無料
 《交通機関》国道1号線尾張大橋から車で約10分
 名神羽島I.Cから車で約30分
 東名阪長島I.Cから車で約10分

《お問い合わせ》
 船頭平開門管理所・木曾川文庫
 〒496-0947 愛知県海部郡立田村福原
 TEL(0567)24-6233



編集後記

弊誌では、読者のみなさんの声で構成するコーナーを企画しています。身近で起こった出来事、地域の情報などをお知らせください。

宛先 「KISSO」編集 FAX(052)571-8627

今号の編集にあたって、各務原市のみなさんに大変お世話になりました。お礼申し上げます。

今回は、岐阜県板取村を特集します。

旧建設省は、省庁再編成で、国土交通省に移行されました。今後も引き続きご愛読いただきますようよろしくお願い申し上げます。

木曾川文庫ホームページ

<http://www.kisogawa-bunko.cbr.mlit.go.jp>

表紙写真

左上:かかみがはら航空宇宙博物館 右上:おがせ池
下:木曾川